

1 学校評価の年間計画

- ア 4月当初に本年度の重点目標を決定する。
- イ 本年度の重点目標をもとに、4月中旬までに各分掌とも課題別評価シートを作成する。（重点目標及び具体的対策や留意事項を決定する。）
- ウ 9月に中間評価として、課題別評価シートに基づく評価活動を実施。（問題の明確化と改善策の検討）
- エ 1月に年度末評価として、課題別評価シートに基づく評価活動を実施。（反省と改善策の検討）次年度の課題及び目標を決定する。
- オ 定期的に学校評価委員会を開催する。（外部評価の内容・方法等の検討）
- カ 学期に1回、学校関係者評価委員会を開催し、学校評価の取組状況に対しての意見や校内見学、視察による意見聴取をするなど、積極的に意見を求める。
- キ 学校評価の取組結果は、PTEA総会、PTEA委員会・役員会、ホームページ等で公開する。
- ク 研究授業等を推進し、分かりやすい授業への取組を推進する。

2 本年度の学校評価

本年度の重点目標	①基礎学力の向上を図り、基礎から応用につながる指導を強化する。②社会人として通用する人間教育に全力である。③コミュニケーション能力の向上につながる方策を実践する。		
項目（担当）	重点目標	具体的な方策	評価結果と課題
生徒指導 （生徒指導部）	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人となるための基礎的モラルやマナーの体得 ・リハビリつけた基本的生活習慣の確立 ・規則遵守と自ら考え、行動できる生徒の育成 ・交通安全意識の涵養 ・いじめのない学校生活の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の取り扱いに関するマナーの徹底をしていく。 ・規則を理解させ、授業・ST等の時間厳守の徹底、頭髪服装指導の実施及び集会等での礼法指導を徹底する。 ・正しい行動選択をできるように予防的支援を行う ・交通安全講話を実施し、安全意識の高揚をはかる ・他者との関わり方について、集会等を活用し考える機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降も情報モラルに関する生徒意識が徹底できるよう、正しい使い方・TPOに応じた使い方の指導の徹底を図りたい。 ・遅刻延べ数は減少傾向にあるものの、遅刻が度重なる生徒に対して3件指導を行った。多重遅刻者の中には年間30回を超える者もいたため、時間を守ることの大切さについて粘り強く指導していきたい。 ・学校生活支援活動に該当する困難課題発生は、計8件だった。件中2件が刑事罰になる可能性のある困難課題で、5件は進路変更となった。安心・安全な学校生活が生徒間の意識で作れるよう、まずはルール・マナーを守ることの大切さを伝えていきたい。そして生徒自ら考えさせ、未然に防ぐよう指導したい。
学習指導 （教務部）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業欠課時間数の減少 ・学習意欲を高める ・外国人生徒が日本社会で活躍できる能力の育成（日本語能力試験の合格） 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠課時間数の多い生徒に適宜指導を行う。 ・業前業後の学習会、学習指導期間の活用により、個別指導の充実を図る。 ・日本語の理解が低い外国籍生徒に対する支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠課時間数が増加した生徒に対して、教務部から指導を行なった。これを境に出席状況が好転した生徒も多かった。今後は引き続き、担任と連携しながら、欠課時数の増加を序盤で抑えられるよう取り組んでいきたい。 ・考査前の学習指導期間に指導を行う先生が多く見られた。また、学年末考査に向けて単位修得が危ぶまれる生徒を対象に行なった特別補習では、多くの生徒が前向きに取り組んだ。 ・今年度入学の外国人生徒は、積極的に学習会に参加した。1学期に成績不振科目を多く抱える生徒もいたが、学習会での取り組みの成果により、2学期以降は成績不振科目の数も少なくなった。また、日本語能力試験3級に合格する生徒もいた。

<p>就労及び進路指導 (進路指導部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立意識と職業観の育成 ・ 企業から必要とされる人材となる素養を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育に関する講話を実施する。 ・ 進路希望調査を実施し、個々の進路への意識を高める。 ・ 企業訪問を実施する。 ・ 進学支援を実施する。 ・ 地域の支援施設と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度から始まった地元企業説明会を今年度も引き続き実施した。生徒が多くの質問をするなど、積極的な姿勢が見られ、生徒にとって充実した時間になった。 ・ 進路希望調査を実施し、個人面談や保護者会に活用した。 ・ 職員による企業訪問や地域の情報交換会へ積極的に参加し、本校定時制課程に対する理解を図った。 ・ 夏季休業中の就職指導を通して、職業観や勤労観を育むとともに、生徒自身の自己分析に取り組んだ。自分の強みをどう活かすか、また、課題に対してどう向き合っていくかなど自己理解を深めさせる機会になった。
<p>保健指導 (保健部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特性を持つ生徒たちが集団の中で適応できるようにする ・ 適切な生活習慣の定着 ・ 感染症予防の知識を深め、対策を実行できるようにする ・ 喫食率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的に「教育相談委員会」を開催し、生徒情報の共有と具体的な対策を練る。 ・ 保健の授業、保健だよりや全校集会などの場を活用し、生活習慣の見直しを喚起する。 ・ 引き続き手洗い、換気、手指消毒の継続を促す。 ・ 保健講話、献立の掲示、日々の声掛けを通して給食や食に関する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談委員会では、生徒情報を全教員で共有することができ、対応を求められる生徒に対して全教員で対策を練り、実行することができた。一方で、月一回程度の開催により、すぐに共有しなければならない事案に関してすぐに共有できる方法を考える必要がある。 ・ 保健の授業や、養護教諭、SC が作成した保健だよりを通して生徒自身に生活習慣を見直させることができた。 ・ 感染症に対する啓発や呼びかけをすることで、生徒自身に感染症対策をさせることができた。 ・ 栄養士による講話、日々の献立の掲示、教員による声掛けにより、給食や食に関する意識を高めることはできたが、給食の喫食率が思うように伸びなかった点は来年度への課題である。
<p>P T E A 活動 (総務部)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T E A 間の連携を深める ・ 学校教育活動に対する理解を深める ・ 防災に対する意識の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T E A 総会や役員・委員会を実施し連携を深める。 ・ 保護者懇談会を実施する。 ・ 激甚災害に向け、防災訓練を充実させ、情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T E A 総会や役員会・委員会を通して生徒の現状の様子を発信し、情報共有することができた。 ・ 保護者と直接話し合う場を設けたことで信頼が深まり、学校運営や教育方針への保護者理解を進めることができた。 ・ 防災訓練では、速やかに生徒を避難させることができた。また、講話では最新情報を取り入れ、防災グッズの準備の大切さについて情報発信した。
<p>専門教育 (機械科)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全意識を高く持ち、実習を行えるようにする。 ・ 社会で通用する技術技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全教育を実施し、安全作業への意識を徹底させる。 ・ 専門教科や実習を通じて機械の扱い方や知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度当初に安全教育を実施し、事故防止のために注意喚起に務めた。また授業前に毎回、安全と対策に関するプリントを記述させ生徒自身の危険予知能力の向上に務めた。今後より一層危険予知に関する情報を教員間で共有し、生徒が安全に技術を習得できる環境を提供できるようにしたい。 ・ 専門的な知識を深められるように希望生徒を募り、技術検定の取得を目指して補習等を実施した。前期では、7名の生徒が受験し、技能検定(旋盤作業)で2級に2名、3級に4名の合格者を出すことができた。
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 進路指導の充実 	